

■狩野亨吉 波乱の人生のなか、独創的な合理主義思想を築き、安東昌益を発見とその紹介など、後世に影響を与えた。

かのうこうきち

薩摩藩士密航1865＝ 出羽国秋田郡大館城内で、佐竹藩家老職にあった儒学者狩野良知の次男に生まれる。

明治維新・1868＝ 3歳：城が官軍に攻められ、母に背負われて津軽に逃れ、のち、能代に移る。

戊辰戦争終・1869＝ 4歳：一家で久保田に移住後、父が分家独立。祖父が死去。

明治6年政変 1873＝ 8歳：

佐賀の乱・・・1874＝ 9歳：父が内務省出仕となり、先に上京したのを追って、

三つの反乱・1876＝11歳：母に連れられ上京。一家は麴町に住む。番町小学校に入学。

西南戦争・・・1877＝12歳：母が死去。

大久保暗殺・1878＝13歳：卒業して、第一番中学変則科に入学するが、

琉球処分・・・1879＝14歳：退学、東京大学予備門に入学。

明治14年政変1881＝16歳：

新体詩抄・・・1882＝17歳：祖母が死去。予備門のほか、中村敬宇の同人塾に入る。

岩倉具視没・1883＝18歳：思想の出発点となる「情象論」「大民新序一」を書く。

秩父事件・・・1884＝19歳：予備門を卒業して、東京大学理学部(のち理科大学と改称)(数学)に入学。寄宿寮に入る。

内閣発足・・・1885＝20歳：徴兵検査を受けて不合格となり、以後スポーツに精を出す。

帝国大学始・1886＝21歳：兄が死去。

初の対等条約1888＝23歳：卒業。暁星中学フランス語専修科に入学する一方、東洋商業学校講師となる。

帝国憲法発布1889＝24歳：寮が失火で全焼。東京帝国大学文科大学哲学科二年に編入。音楽論を志す。

足尾鉍毒始・1891＝26歳：卒業し、大学院に進む。

大本教・・・1892＝27歳：四高教授として、金沢に赴任。教頭格。西田幾太郎の持ち家に入るが、

郡司千島探検1893＝28歳：辞任し、

日清戦争始・1894＝29歳：*帰京。「数論派哲学大意」を発表。詐欺事件に巻き込まれる。

日清戦争終・1895＝30歳：「志筑忠雄の星気説」を発表し、再評価。

子規句歌革新1898＝33歳：熊本の高野の教授を経て、第一高等学校校長に就任。前小屋久子の二児を伴い上京、狩野家に同居。

Bushidou・・・1899＝34歳：「徳育に就きて」を発表。「自然真営道」を入手、埋もれていた安藤昌益を発見・紹介した。

ピアノ国産化・1900＝35歳：新寮が完成。その自治に関して学生と論争。

田中正造直訴1901＝36歳：

教科書疑獄・1902＝37歳：学生の風紀問題がしきりに新聞にとり上げられ、

日比谷公園・1903＝38歳：藤村操の投身自殺が寮をゆるがしたが、

日露戦争始・1904＝39歳：寮に初めて清国の留学生を受け入れた。

日露戦争終・1905＝40歳：

満鉄発足・・・1906＝41歳：父が死去。京都帝大文科大学の初代学長となる。

韓国反日暴動1907＝42歳：甥を養子にする。*文学博士となる。「記憶すべき閑流の数学家」を発表し、本田利明を初めて紹介。

アヲオ創刊・1908＝43歳：*病氣により願い出て、退官。「内外教育評論」に某文学博士談'大思想家あり'と安藤昌益が紹介される。

幅広い古書収集家としても知られ、

韓国併合・・・1910＝45歳：

「経済的に困難になり、株に手を出すも失敗、借金に追われるようになり、

明治天皇没・1912＝47歳：東北帝国大学図書館に「狩野文庫」が創設され、蔵書を処分。

大正政変・・・1913＝48歳：見かねた帝大総長浜尾新・山川健次郎から、皇太子の教育掛になるよう説得されるも固辞。

ロシア革命・1917＝52歳：全国中学校校長会議で安藤昌益を語る。

本格政党内閣1918＝53歳：自ら中心となって匿名組合をつくり、東京鋼鉄製作所を設立するも、武士の商法で失敗、

ベルリン条約・1919＝54歳：流行性感冒にかかり、一時危篤。

原敬首相暗殺1921＝56歳：

関東大震災・1923＝58歳：「ついに「自然真営道」も手放し、音羽の自宅に「明鑑社」「書画鑑定並に著述業」の看板を掲げる。

護憲三派圧勝1924＝59歳：解散となり、一切の債務を負う。

以後、頻繁に東北旅行。

金融恐慌・・・1927＝62歳：安藤昌益探索のため八戸を、また昌益と佐藤信季との関わりを知るため秋田県南地方を旅行。

共産党事件・1928＝63歳：「漱石全集」の月報に「夏目君と私」を書く。*岩波講座(世界思潮)の一冊として「安藤昌益」を発表。自動車に

ぶつけられる。

海軍軍縮条約1930＝65歳：電話を処分。学士会で「科学的方法に拠る書画の鑑定と登録」を発表。

満州事変・・・1931＝66歳：

国際連盟脱退1933＝68歳：伊豆修善寺に建立の「漱石詩碑碑文」を書く。

帝人疑獄事件1934＝69歳：経済的トラブルに巻き込まれる。

芥川直木賞始1935＝70歳：東京朝日新聞に談話記事「漱石と私」掲載。

二二六事件・1936＝71歳：新興宗教の宝物が偽作であることを証明し「天津教古文書の批判」発表、

日中戦争始・1937＝72歳：

健保+総動員 1938＝73歳：*初めて恒例の年賀回礼を怠り、

日米開戦・・・1941＝76歳：日米開戦後は、

・・・1942＝77歳：一切の私的会合に出席せず、持病が頻発して、没した。

安倍能成編「狩野亨吉遺文集」(1958)がある。1冊の著書も残さなかったが、その思想は田辺元ら多くに影響を与えている。